

# ちとせ観光通信

～千歳一遇～ せんざいいちぐう

発行 一般社団法人 千歳観光連盟

066-0019 北海道千歳市流通3丁目4-1

電話 0123(24)8818

FAX 0123(24)8819

2022年11月30日発行 【再刊第5号】

## 今号の話題

- 東京で氷濤まつり PR  
東京千歳会3年ぶり開催
- ANA関係者に千歳の魅力聞く  
ビジネスユース誘客事業
- 鮭の日アイヌフェスタ  
先住民文化、魅力に触れる

## 氷濤まつりを首都圏で発信

3年ぶり開催 東京千歳会

どさんこプラザでもPR



支笏湖まつり実行委が登壇。ポスターを掲げて氷濤まつりをアピール

千歳の出身者や勤務経験があるなど、ゆかりの人でつくる東京千歳会が21日、東京都千代田区の都市センターホテルで開かれ、支笏湖まつり実行委員会のメンバーが氷濤まつりをPRしました。

東京千歳会には約180人が出席。実行委のメンバーがPRタイムに登壇。支笏湖ブルーを基調にしたポスターを掲げて、

来年1月28日に開幕する北海道を代表する冬のイベント「千歳・支笏湖氷濤まつり」を周知しました。また一行は千歳会に先駆けて、有楽町のどさんこプラザでもPR活動を展開。ノベルティグッズを配布して、冬季の千歳観光の魅力を発信していました。道行く人が立ち止まり、メンバーが語る当地の魅力に耳を傾けました。



どさんこプラザでも魅力発信

今年の東京千歳会では、千歳出身の太田英昭会長（産経新聞社顧問）の主催者あいさつに続き、千歳会顧問の山口幸太郎千歳市長の発声で乾杯。観光連盟会長の小田賢一も、顧問としてあいさつに立ちました。

PRタイムにはルタオを運営するケイシイシイ、キリンビール北海道千歳工場の代表者が登壇してご当地の菓子やビールをアピール。千歳市内や支笏湖のホテルペア宿泊券が当たる大抽選会が催され、会場を盛り上げました。

協賛品として、岩塚製菓、カルビー千歳工場、田中製館、北海道キックマン、フジッコ、トヨーケム、DADACA、CACAO、CATなどの企業が商品も用意。新型コロナウイルス感染拡大もあり3年ぶりの開催とあってか、参加者は懐かしい千歳の話題に触れながら、近況報告や情報交換などの話に花を咲かせていました。

## 航空需要回復支援事業

### ANA関係者を招致

### 千歳の魅力を再発見

千歳を訪れる人は観光客のほかビジネス目的の人も多く、特に市街地の宿泊施設ではコロナ前は8割の宿泊客がビジネス客で、

観光連盟は11月9～11日の三日間、ANAグループの関係者を千歳市内に招致し、当地観光の魅力を探る機会を設けました。2022年度の道内航空需要回復支援事業の一環で、仕事とレジャーを組み合わせた「ブレジャー滞在プログラム」造成に近づきたい考えです。



都会では体験する機会も少ない農作業も体験

年間100万泊にも上ります。

こうした背景を受け、観光連盟はビジネスユース客を対象にゴルフやアクティビティなどの観光要素のほか、地元食材を生かしたメニューの提供などを宿泊プランに盛り込み、市内の観光や食に関心を向けてもらうような企画の造成を検討しています。

期間中は来千した同グループの皆さんに、さまざまな体験をしてもらいました。美々川でのカヌー、支笏湖でのクリアカヤックでは、周囲を取り巻く大自然の美しさが参加者を魅了。農家では教育旅行の受け入れやイチゴ狩りの状況について生の声を聞くとともに、イチゴの苗の不要な葉のせん定や雑草取りを体験しました。

参加者は空港からの好アクセス環境、千歳地域のコンテンツの良さなど魅力を語ると同時にブレジャー誘客の課題の指摘もしていただきました。



美々川の美しい景色の中でカヌーを体験

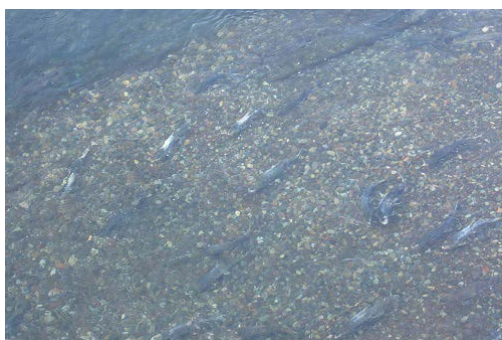
サケのふるさと千歳水族館や世界文化遺産のキウス周堤墓群、支笏湖地域の温泉のほか、市外にもノーザンホースパークやゆにガーデンなど多彩なスポットがあります。多くの人に楽しんでもらえる多様な要素がある千歳は可能性を秘めた地域です。

連盟は今後、出された意見を参考に、23年度以降旅行会社へ提案できる観光商品の企画を検討します。千歳と周辺地域の魅力を発信することで、地域の活性化に貢献したい考えです。

## インディアン水車

### サケ捕獲過去最多 55万匹

サケふ化放流事業のため設けられた「インディアン水車」で捕獲されたサケが1888年の事業開始以来、過去最多の55万2777匹を超えました。11月18日時点の数字です。メディアでも報道された今年サケを見ようと、サケのふるさと千歳水族館には多くの人が群れを見に来ていました。



今年も千歳川を遡上したサケ

# 鮭の日アイヌフェスタ開催

千歳アイヌ協会、伝承保存会



伝統の弓の舞を披露

千歳アイヌ協会と千歳アイヌ文化伝承保存会は11月12、13両日、第2回鮭の日・アイヌフェスタをサケのふるさと千歳水族館、道の駅サーモンパーク千歳で開催しました。訪れた市民は伝統の漁具を使ったサケ漁や舞踊に触れ、アイヌ文化の奥深さに触れていました。

市民にアイヌ文化に親しみ、理解を深めてもらおうと企画。アイヌ民族が主食として重んじたサケ

にちなみ、道の駅と水族館が協力する形で実施しました。

道の駅では両会のメンバーが民族衣装に身を包み、ホリッパ（輪踊り）やク・リムセ（弓の舞）などを披露。伝統漁具のかぎ鉞「マレク」を使いサケをとらえる実演も市民が参加する形で実施。参加者は狙いを定めるもなかなかうまく行かず、見事捕まえた人には大きな拍手が送られていました。両日ともにアイヌの文化や精神についての講演会も催され、訪れた人は先住民族の知恵と文化の豊かさに感嘆していました。



伝統漁具「マレク」でサケを捕獲



会場には大きな骨組みがお目見え

2023年

1月28日開幕

## 会場制作始まる

現した「苔の洞門」が3年ぶりにお目見えするなど、制作スタッフたちも気合いが入ります。例年大小約30基の水像が林立し、昼間は透明度の高い支笏湖の水でできた氷が生み出す支笏湖ブルーと呼ばれる青さが来場者を魅了。夜はライトアップした

千歳・支笏湖氷濤まつりの会場制作作業が、支笏湖まつり実行委員会会場制作管理部の手で始まり

幻想的な会場が訪れた人を楽しませます。観光連盟は実行委事務局として、まつりの開催に協力しています。新型コロナ感染防止のため、前回、前々回と従来とは大きくレイアウトを変えて会場を制作しました。今年もこの経験を踏襲しつつ、人気の水像を復活させます。現在は丸太や鉄パイプを巧みに組み立て、水像の基礎となる骨組みを作る作業を進めています。環境にも配慮し、資材の再利用も進めるなど、国立公園内のまつりならではの配慮もしながら、準備は着々と進んでいます。



真剣な表情で作業に臨む会場制作管理部のメンバー

## イベント情報

▼千歳支笏湖水濤まつり安全祈願祭（12月2日、支笏湖園地内会場）。氷像制作準備が本格化する会場で、作業の安全と千客万来、新型コロナウイルスの収束を願って神事を執り行う。

▼第4回チャリティーカラオケフェスティバル（12月11日、北ガス文化ホール）千歳商工会議所主催、千歳圏人会共催。市内の企業や自衛隊、団体などからの出場者が自慢のものを披露する。チケットは自由席1000円。

▼ノーススノーランドin千歳（12月28日オープン予定、ザ・ノースカントリーゴルフクラブ）国内外観光客から人気のスポット。スノーラフティングや4輪バギー、無料の大型チューブスライダーなどを楽しめる。

## 職員紹介

### 大宮 裕輔

おおみや ゆうあけ

○1979年1月30日 千歳市出身の34歳  
○役職 北海道観光振興機構総務企画本部制作・マーケティング部次長  
○趣味 キャンプ、ゴルフ

7月から北海道観光振興機構に2年間の予定で出向し、政策・マーケティング部に勤務しています。観光客が北海道のどこに行ったのか、どのような買い物やアクティビティを楽しんだのか、データを集めて観光戦略に生かす部署です。いろいろな方とのつながりができ、刺激になります。この知見や人脈を千歳のために生かしたいですね。大学では英語を専攻。1年間のアメリカ留学後、英語を生かしながら地元のために働きたいと思っていたところ、連盟の募集があり入職しました。イベン



バックパッカーとしてヨーロッパ一周もした行動派の大宮さん

ト支援やパンフ作成、海外プロモーションや商談会への参加など、観光畑を歩んでいます。千歳に住んでいても分からない事がたくさんあり、「これが観光客に喜ばれるのか」と気づかされる事が多かったです。ちなみに私の誕生日は第1回千歳・支笏湖水濤まつりの開幕日と同じなんですよ。趣味は子どもも大きくなったのでキャンプ、あとはゴルフでしょう。9月から始めたばかりで、まだ2回しかコースには出ていません。スコアですか？それは秘密です！これから練習したいと思います。

## 編集後記

温かい日と寒い日が交互に訪れるような天候の日々が過ぎ、だんだん寒さが身にしみるようになってきました。札幌ではすでに初雪を観測。恵庭岳の山頂も雪の冠をかぶり、まちなかに冬將軍が訪れる日も近い事でしょう。

新千歳空港に買い物に行くとき、大きなキャリーバックをひいた旅行者が多く見られるようになりました。コロナ禍で減少した旅客が回復してきたように見受けられます。

まもなく師走。冬の観光シーズンです。新千歳に降り立った観光客が雪景色を目にし、最初に冬の感動を覚える地はまぎれもなくこの千歳です。皆さんの力で多くの人の心を振るわせる季節にしましょう。（ひ）